

**The 7th International Conference on
Food Factors (ICoFF2019)**

第7回国際フードファクター会議

**The 9th International Conference on
Polyphenols and Health (ICPH2019)**

第9回ポリフェノールと健康国際会議



開催趣意書

会 期： 2019年11月28日（木）～2019年12月5日（木）

会 場： 神戸国際会議場・神戸国際展示場・神戸ポートピアホテル他

ご 挨拶

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、2019年11月28日(木)～12月5日(木)に、神戸国際会議場・神戸国際展示場・神戸ポートピアホテル他において The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019) / The 9th International Conference on Polyphenols and Health 2019 (ICPH2019) / The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods 2019 (ISNFF2019)の3国際学会を同時期に開催する運びとなりました。まず、2019年11月28日(木)～12月1日(日)にICPH2019を、続いて、12月1日(日)～12月5日(木)にICoFF2019にISNFF2019を併催する形で合同学術集会を開催いたします。

ICoFFは1995年に食品成分によるがん予防をテーマに第1回が開催され、その後も4年ごとに国内外より食品系、医学系、薬学系研究者が一同に集まり、生体調節機能に関わる食品因子研究の成果を発表する貴重な国際学会として発展して参りました。過去2回の海外での開催を経て、今般、12年ぶりに本会を日本(神戸)で開催することになり、現在の日本の食品因子研究の成果を世界に示せる絶好の機会と考えております。ICoFF2019では、「Food Factor Science from the Molecular to Human Studies (食品因子の科学～分子から臨床まで～)」というテーマを採用しました。この会議では、産官学的人的交流を通して、最新の知見や情報を交換し、科学者、専門家間のネットワークをつくる機会を提供いたします。

ISNFFは食品機能の研究の発表の場として2007年に設立されました。翌年2008年に第1回の年次大会を台湾の台中市で開催して以後、毎年、年次大会を日本を含む各国で開催してきました。また2008年にJournal of Functional Foods誌を立ち上げ、2017年からは、学会誌としてJournal of Food Bioactivesを擁することで、食品の機能に関する論文の発表の場として大きく育ててきました。本会は実際に食品として応用可能な食品機能研究を重視することを設立以来モットーとしています。

ICPHは2003年に第1回が開催され、その後もポリフェノールの健康増進機能に関わる国際学会を2年ごとに開催しながら発展しております。今回のICPH2019では「Basic and Human Studies to Reach Our Goal (基礎研究と臨床研究～ポリフェノール研究の目指すもの～)」というテーマで、ポリフェノールの生体利用性や代謝、ヒト臨床実験での効果と分子標的などについて活発に議論する予定です。

これら3国際学会の運営にあたりましては、本来ならば学会の助成金と参加費ですべてを賄うべきですが、助成金と参加費からでは限度があり、経費の相当額を諸団体及び諸企業からのご浄財に頼らざるを得ないのが実情でございます。

つきましては、誠に恐縮でございますが、3国際学会の趣旨にご理解をいただき、協賛などのご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、開催の会計管理に関しては3国際学会を一括して行いますので、ご協賛については、ICoFF2019を主体として募集させていただきます。

ご賛同いただけましたら、スポンサー募集要項に記載した要領に沿ってお申込みくださいますようお願い申し上げます。なお、ご支援いただきました諸団体及び諸企業のご芳名は、ホームページ、プログラム集、会場に掲示して謝意を表しますほか、プログラム集を贈呈させていただきます、関係各位の交流が図れるよう準備する予定です。

末筆ながら、益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

2018年3月吉日

ICoFF2019 / ICPH2019 / ISNFF2019
合同開催組織委員会 組織委員長
ICoFF2019 会頭 / ICPH2019 会頭
芦田 均
神戸大学大学院農学研究科 教授

ICPH2019 会頭
下位 香代子
静岡県立大学食品栄養科学部 教授

ISNFF2019 会頭
佐藤 健司
京都大学大学院農学研究科 教授

開催概要

会議の名称

英文名 The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019)
The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019)
The 12th International Conference and Exhibition on
Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF2019)

和文名 第7回国際フードファクター会議(ICoFF2019)
第9回ポリフェノールと健康国際会議(ICPH2019)
第12回国際機能性食品学会(ISNFF2019)

主催 ICoFF2019/ICPH2019/ISNFF2019 合同開催組織委員会

共催 日本フードファクター学会 (JSoFF)

会期 ICPH2019 2019年11月28日(木)～12月1日(日)
ICoFF2019/ISNFF2019 2019年12月1日(日)～12月5日(木)

開催場所 神戸国際会議場 〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1 TEL: 078-302-5200
神戸国際展示場 〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-11-1 TEL: 078-302-1020
神戸ポートピアホテル 〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-10-1 TEL: 078-302-1111

日程表

	日程	午前	昼	午後	夜
ICPH2019	11/28 (木)	-	-	開会式 (ICPH) オープニングレクチャー	ウェルカムレセプション (ICPH)
	11/29 (金)	基調講演、 シンポジウム	-	シンポジウム ポスターセッション	-
	11/30 (土)	基調講演、 シンポジウム	-	シンポジウム ポスターセッション	バンケット (ICPH)
	12/1 (日)	基調講演、 シンポジウム	閉会式 (ICPH)	キーノートセッション 開会式 (ICoFF/ISNFF)	ウェルカムレセプション (ICoFF/ISNFF)
ICoFF2019/ISNFF2019	12/2 (月)	基調講演、 シンポジウム	ランチョン セミナー	シンポジウム ポスターセッション	-
	12/3 (火)	基調講演、 シンポジウム	ランチョン セミナー	シンポジウム ポスターセッション	Kobe Night (招待講演者交流会)
	12/4 (水)	基調講演、 シンポジウム	ランチョン セミナー	シンポジウム ポスターセッション	バンケット (ICoFF/ISNFF)
	12/5 (木)	基調講演、 シンポジウム	閉会式 (ICoFF/ISNFF)	-	-

後援 (予定) フードサイエンス・フォーラム(FSF)、日本味と匂学会、日本アミノ酸学会、日本栄養改善学会、
日本栄養・食糧学会、日本カテキン学会、日本がん予防学会、日本機能性食品医用学会、
日本香辛料研究会、日本酸化ストレス学会、日本時間生物学会、日本生薬学会、
日本食品科学工学会、日本食品免疫学会、日本スポーツ栄養学会、日本生化学会、
日本生物工学会、日本調理科学会、日本糖尿病学会、日本農芸化学会、
日本ビタミン学会、日本ビフィズス菌センター(腸内細菌学会)、日本肥満学会、
日本フードファクター学会、日本分子生物学会、日本ペプチド学会、
日本ポリフェノール学会、日本薬学会、日本薬理学会、日本臨床栄養学会、
日本レチノイド研究会、Royal Society of Chemistry、和漢医薬学会

共催団体(日本フードファクター学会)について

1995年に浜松で開催された「国際フードファクター学会」以後、科学的根拠に基づいた(Evidence-based)、「機能的食品因子」(ファンクショナルフードファクター)研究の重要性に大きな注目が集められてきました。この学会には予想以上の参加者と熱心な討論が行われ、主催した日本の研究者たちの想像以上の注目度で、出席した1000人近い参加者の間から、このままで終わるのはもったいないとの声があがり、その結果、同年「日本フードファクター学会」(JSoFF)が設立されました。現在、個人会員約400名、賛助・団体会員約10社により構成され、大学、公立研究機関、企業など所属にかかわらず、食品科学、医学、薬学、栄養科学など広く食品と健康に関連した分野での新しい研究を推進すると共に、自ら研究活動を積極的に進める研究者の情報交換、交流、親睦をはかり、人類の健康増進に寄与することを目的とし、以下の活動を行っています。

1. 学術集会等の開催
2. JSoFF Letter の刊行
3. 研究の奨励および研究業績の表彰
4. 食品機能学に関する研究および調査
5. ICoFF の開催・運営補助
6. その他上記の目的を達成するために必要な事業

日本開催にいたる経緯と意義

ICoFF が1995年に発足し、JSoFFを中心として4年に1回ずつ開催されてきましたが、2011年が台北(台湾)で、そして2015年がソウル(韓国)と海外で2回開催され、この日本発の世界的な「機能的食品因子」研究に関わる学術集会を再度日本で開催しようという機運が高まりました。そこで、2015年のソウル大会の際に開催されたICoFF International Committee Meetingにおいて議論され、次回2019年の開催を12年ぶりに日本で行うことが決定し、この度神戸で2019年12月に開催させて頂くことになりました。

ICPHは2003年のフランスで開催されて以来、2年ごとに開催されていますが、2007年に京都でICoFFと連続する形で開催された経緯があります。本来は、ヨーロッパとその他の地域で交互開催が原則であり、2017年がケベック(カナダ)で開催されたことから、当初2019年はヨーロッパでの開催が妥当と考えられていました。しかし、日本でICoFFを開催することから、2007年と同様に連続開催をすることで、世界中のポリフェノール関係者を集めて議論する意義を主張し、日本政府観光局と神戸国際観光コンベンション協会の全面的支援を受けて、2017年に招致に成功しました。

ISNFFは2008年から毎年世界各地で開催されている機能的食品因子に関する国際学会ですが、2011年に札幌で開催されています。2015年の無錫(中国)大会において、ICoFFとの共同開催を打診されました。2016年にICoFFの日本開催が決まったことを機運に2019年の合同大会を模索し、2016年のオーランド(米国)大会で議論し、翌2018年の群山(韓国)大会のInternational Committee Meetingにおいて提案が受け入れられました。

このような経緯で、3つの食品の機能的性研究を推進している世界的な学会をまとめて神戸で開催することになりました。「機能的食品因子」研究への期待は、日本だけでなく世界中に広まっており、今後一層高まっていくものと期待されます。皆様への情報の場となると共に、世界中の研究者との交流の場となることを期待しています。ぜひ、積極的にご参加いただき、活用されることを心から期待しています。

過去の開催状況

<ICoFF>

第1回	1995年	浜松(日本)
第2回	1999年	京都(日本)
第3回	2003年	東京(日本)
第4回	2007年	京都(日本)
第5回	2011年	台北(台湾)
第6回	2015年	ソウル(韓国)

<ICPH>

第1回	2003年	ヴィッシー(フランス)
第2回	2005年	UC デイヴィス(アメリカ)
第3回	2007年	京都(日本)
第4回	2009年	ハロゲイト(イギリス)
第5回	2011年	シッチス(スペイン)
第6回	2013年	ブエノスアイレス(アルゼンチン)
第7回	2015年	トゥール(フランス)
第8回	2017年	ケベック(カナダ)

<ISNFF>

第1回	2008年	台中(台湾)
第2回	2009年	サンフランシスコ(アメリカ)
第3回	2010年	バリ島(インドネシア)
第4回	2011年	札幌(日本)
第5回	2012年	ハワイ(アメリカ)
第6回	2013年	台北(台湾)
第7回	2014年	イスタンブール(トルコ)
第8回	2015年	無錫(中国)
第9回	2016年	オーランド(アメリカ)
第10回	2017年	群山(韓国)
第11回	2018年	バンクーバー(カナダ)

会議の構成 セッション: オープニングレクチャー、キーノートセッション、基調講演、シンポジウム、
ポスターセッション、ランチョンセミナー

会議: 関連学会総会、各種委員会

社交行事: ウェルカムレセプション、バンケット、招待講演者交流会

その他: 展示会

使用言語 英語

参加予定国・地域

アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、チリ、中国、チェコ、デンマーク、
フィンランド、フランス、ドイツ、インド、イスラエル、イタリア、日本、マケドニア、マレーシア、モンゴル、
ニュージーランド、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、韓国、ルーマニア、シンガポール、スロバキア、
スペイン、スイス、台湾、タイ、トルコ、イギリス、アメリカ 等

参加予定者数

ICoFF2019/ISNFF2019

海外参加者数: 500名

国内参加者数: 1,000名

合計: 1,500名

ICPH2019

海外参加者数: 200名

国内参加者数: 500名

合計: 700名

公式サイト

ICoFF2019/ISNFF2019 <http://icoff2019.umin.jp/>

ICPH2019 <http://icph2019.umin.jp/>

主なプログラム

【主なテーマ】

〈ICoFF/ISNFF〉

全体テーマ

(英文) Food Factor Science from Molecular to Human Studies

(和文) 食品因子の科学～分子から臨床まで～

分科会テーマ

Sources and Products (原料と製品)

- Washoku-Traditional Japanese Cuisine (和食、日本の伝統食)
- Fermented Foods and Beverages (発酵食品・飲料)
- Fruits and Vegetables (果実類・野菜類)
- Herbs and Spices (ハーブ・スパイス)
- Marine Products (海産物)
- Tea, Coffee and Cocoa (茶・コーヒー・カカオ)
- Soy and Legumes (大豆と豆類)
- Others (その他)

Food Factors (食品因子)

- Human Studies of Functional Food Factors (機能性食品因子の臨床試験)
- Bioactive Amino Acids and Peptides (生理活性アミノ酸・ペプチド)
- Functional Carbohydrates (機能性炭水化物)
- Functional Lipids (機能性脂質)
- Natural Pigments, Carotenoids and Xanthophylls (天然色素とカロテノイド・キサントフィル)
- Polyphenols: Molecular Mechanisms, Absorption, Bioavailability and Metabolism
(ポリフェノール：分子メカニズム、吸収、生体利用性、代謝)
- Sulfur Compounds (含硫化合物)
- Probiotics and Prebiotics (プロバイオティクス・プレバイオティクス)
- Vitamins (ビタミン)
- Minerals (ミネラル)
- Others (その他)

Functions and Mechanisms (機能性と作用機序)

- Gastrointestinal Health and Diseases (消化器系疾患と健康)
- Anti-Inflammation (抗炎症作用)
- Allergy and Immune Modulation (アレルギーと免疫調節)
- Metabolic Syndrome, Obesity and Diabetes (メタボリックシンドローム・肥満・糖尿病)
- Cardiovascular Health (心血管系の健康)
- Bone Health (骨の健康)

- Skin Health (皮膚の健康)
- Brain Health (脳の健康)
- Muscle Atrophy and Locomotive Syndrome (筋萎縮とロコモティブシンドローム)
- Cancer Chemoprevention (がんの化学予防)
- Nutritional Regulation of Epigenetics (栄養によるエピジェネティック調節)
- Antioxidant and Redox Regulation (抗酸化物質とレドックス調節)
- Molecular Targets of Food Factors (食品因子の分子標的)
- Chronobiology and Nutrition/Food (時間生物学と栄養・食品)
- Exosome and microRNA (エクソソームとマイクロ RNA)
- Autophagy (オートファジー)
- Hormesis (ホルミシス)
- Others (その他)

Others (その他)

- Analytical Methods and Omics Technologies (分析法とオミクス解析)
- Biomarkers (バイオマーカー)
- Epidemiology (疫学)
- Taste and Olfaction (味覚と嗅覚)
- R&D of Functional Foods and Nutraceuticals (機能性食品とニュートラシューティカルの研究開発)

〈ICPH〉

全体テーマ

(英文) Basic and Human Studies to Reach Our Goal

(和文) 基礎研究と臨床研究～ポリフェノール研究の目指すもの～

分科会テーマ

- Bioavailability and Metabolism (生体利用性と代謝)
- Biomarkers: Analytical Methods and Usability (バイオマーカー：分析法と有用性)
- Molecular Targets (分子標的)
- Target Tissues, Brain-gut-axis and Microflora (標的組織、脳腸相関、腸内細菌)
- Disease Prevention: Aging, Cardiovascular Disease, Metabolic Syndrome, Obesity, Diabetes etc.
(疾病予防: 老化、心血管疾患、メタボリック症候群、肥満、糖尿病等)
- Health Promotion (健康増進)
- Sports and Athletic Performance (スポーツと運動能力)
- Polyphenols in Japanese and Asian Foods (日本食及びアジア食におけるポリフェノール)
- Learning from Non-polyphenol Compounds (ポリフェノール以外の物質から学ぶこと)

【海外招待講演者(予定)】

Cesarettin Alasalvar	TÜBİTAK Marmara Research Center	Turkey
Rotimi E. Aluko	University of Manitoba	Canada
Yves Desjardins	Laval University	Canada
Zigang Dong	University of Minnesota	USA
Bo Jiang	Jiangnan University	China
Amin Ismail	Universiti Putra Malaysia	Malaysia
Paul A. Kroon	Quadram Institute Bioscience	UK
Joshua D. Lambert	The Pennsylvania State University	USA
Claudine Manach	INRA Clermont-Ferrand	France
Yoshinori Mine	University of Guelph	Canada
Alyson E. Mitchell	University of California Davis	USA
Sayuri Miyamoto	University of São Paulo	Brazil
Christine Morand	INRA Clermont-Ferrand	France
Patricia Oteiza	University of California Davis	USA
Jung H.Y. Park	Hallym University	Korea
Mariusz K. Piskula	Polish Academy of Sciences	Poland
Jeremy Spencer	University of Reading	UK
Gow-Chin Yen	National Chung Hsing University	Taiwan

【国内招待講演者(予定)】

加藤 久典	東京大学
榊 利之	富山県立大学
佐藤 隆一郎	東京大学
下村 吉治	名古屋大学
豊國 伸哉	名古屋大学
内藤 裕二	京都府立医科大学
山本(前田)万里	農業・食品産業技術総合研究機構
吉田 博	東京慈恵会医科大学

予算

収入の部

(単位：円)

収入区分	合計	備考
1.会議参加費	71,810,000	神戸市、中内財団、その他民間財団補助金
2.補助金・助成金	9,800,000	
3.広告掲載料	2,460,000	
4.機器展示出展料	9,330,000	
5.共催事業	38,600,000	
収入合計	132,000,000	

支出の部

(単位：円)

支出区分	合計	備考
1.会議準備費	<u>26,820,000</u>	
(1) 人件費	1,580,000	
(2) 旅費	350,000	
(3) 庁費		
事前登録業務	5,000,000	
ホームページ制作費	220,000	
印刷製本費	14,670,000	
運営マニュアル・進行台本・ スタッフ配置表原稿作成費	130,000	
企業対応・セミナー・展示会 事務局業務	650,000	
委託管理費	4,220,000	
2.会議運営費	<u>101,800,000</u>	
(1) 人件費	4,330,000	
(2) 旅費・接遇関係費	31,500,000	
(3) 庁費		
会場借上費	16,250,000	
看板・会場設営・撤去費	1,540,000	
ポスター・企業展示関連費	5,930,000	
その他関連費用	1,200,000	
映像機器・音響照明借上費	7,150,000	
備品使用料	5,020,000	
当日備品消耗品費	3,870,000	
通信運搬費	30,000	
会議費	24,980,000	
3.事後処理費	<u>670,000</u>	
(1) 人件費	320,000	
(2) 庁費		
印刷製本費	250,000	
通信運搬費	100,000	
4.予備費	<u>2,710,000</u>	
支出合計	132,000,000	

組織委員会

合同組織委員長・会頭 (ICoFF、ICPH)	芦田 均	神戸大学
会頭 (ICPH)	下位 香代子	静岡県立大学
会頭 (ISNFF)	佐藤 健司	京都大学
副会頭 (ICoFF)	関 泰一郎	日本大学
副会頭 (ICoFF)	村上 明	兵庫県立大学
副会頭 (ICPH)、財務委員長 (ICoFF)	上原 万里子	東京農業大学
副会頭 (ICPH)、募金副委員長 (ICoFF)	越阪部 奈緒美	芝浦工業大学
副会頭 (ICPH)、事務局長 (ICoFF)	中村 宜督	岡山大学
事務局長 (ICPH)、財務副委員長 (ICoFF)	室田 佳恵子	島根大学
募金委員長	内藤 裕二	京都府立医科大学
募金副委員長	菅原 達也	京都大学
募金委員	川畑 球一	甲南女子大学
募金委員	熊沢 茂則	静岡県立大学
募金委員	榊原 陽一	宮崎大学
募金委員	仲川 清隆	東北大学
企業委員	相澤 宏一	カゴメ株式会社
企業委員	小野 佳子	サントリーウエルネス株式会社
企業委員	夏目 みどり	株式会社明治
企業委員	物井 則行	ライオン株式会社
企業委員	山本 憲朗	ハウスウエルネスフーズ株式会社

国内組織委員

赤川 貢 (大阪府立大学)	高杉 美佳子 (九州産業大学)
新井 博文 (北見工業大学)	高橋 信之 (東京農業大学)
生城 真一 (富山県立大学)	立花 宏文 (九州大学)
石井 剛志 (神戸学院大学)	津田 孝範 (中部大学)
石坂 朱里 (兵庫県立大学)	都築 毅 (東北大学)
伊東 秀之 (岡山県立大学)	東泉 裕子 (国立健康・栄養研究所)
伊藤 美紀子 (兵庫県立大学)	豊國 伸哉 (名古屋大学)
井上 順 (東京農業大学)	中村 俊之 (岡山大学)
井上 博文 (東京農業大学)	成川 真隆 (東京大学)
海野 知紀 (東京家政学院大学)	原田 直樹 (大阪府立大学)
加治屋 勝子 (鹿児島大学)	平井 静 (千葉大学)
片山 茂 (信州大学)	福田 伊津子 (神戸大学)
勝間田 真一 (東京農業大学)	福渡 努 (滋賀県立大学)
加藤 陽二 (兵庫県立大学)	藤村 由紀 (九州大学)
河合 慶親 (徳島大学)	細川 雅史 (北海道大学)
菊崎 泰枝 (奈良女子大学)	細野 朗 (日本大学)
岸本 良美 (お茶の水女子大学)	細野 崇 (日本大学)
熊谷 日登美 (日本大学)	増田 修一 (静岡県立大学)
侯 徳興 (鹿児島大学)	三坂 巧 (東京大学)
後藤 剛 (京都大学)	三谷 墨一 (信州大学)
小林 彰子 (東京大学)	三好 規之 (静岡県立大学)
小堀 真珠子 (農研機構・食品総合研究所)	向井 理恵 (徳島大学)
米谷 俊 (近畿大学)	森光 康次郎 (お茶の水女子大学)
近藤 春美 (日本大学)	森山 達哉 (近畿大学)
近藤(比江森) 美樹 (徳島文理大学)	保田 倫子 (椋山女学園大学)
坂尾 こず枝 (鹿児島大学)	矢部 富雄 (岐阜大学)
榊原 啓之 (宮崎大学)	山崎 英恵 (龍谷大学)
薩 秀夫 (前橋工科大学)	山崎 正夫 (宮崎大学)
茶山 和敏 (静岡大学)	山地 亮一 (大阪府立大学)
重村 泰毅 (東京家政大学)	山下 陽子 (神戸大学)
庄司 俊彦 (農研機構・果樹研究所)	吉田 博 (東京慈恵会医科大学)
白井 康仁 (神戸大学)	若木(上田) 学 (農研機構・食品総合研究所)

国内顧問

阿部 啓子	東京大学
荒井 綜一	東京農業大学総合研究所、元東京大学(第3回 ICoFF 会頭)
有賀 豊彦	元日本大学
板倉 弘重	(医社)品川イーstownメディカルクリニック、元茨城キリスト教大学
稲熊 隆博	帝塚山大学
宇都宮 一典	東京慈恵会医科大学
大澤 俊彦	愛知学院大学、元名古屋大学(第1回 ICoFF 会頭)
大東 肇	元京都大学(第2回 ICoFF 会頭)
金沢 和樹	吉備国際大学、元神戸大学
上野川 修一	元東京大学
久保田 紀久枝	東京農業大学、元お茶の水女子大学
近藤 和雄	東洋大学、元お茶の水女子大学
酒井 敏行	京都府立医科大学
佐藤 隆一郎	東京大学
重岡 成	近畿大学
島村 忠勝	元昭和大学
下村 吉治	名古屋大学
清水 誠	東京農業大学、元東京大学
津志田 藤二郎	宮城大学
寺尾 純二	甲南女子大学、元徳島大学(第3回 ICPH 会頭)
中谷 延二	元大阪市立大学
中山 勉	東京農業大学、元静岡県立大学
原 博	北海道大学
宮澤 陽夫	東北大学未来科学技術共同研究センター
宮下 和夫	北海道大学(ISNFF 次期会長)
三輪 操	人間総合科学大学、元東京農業大学
矢澤 一良	早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構
山田 静男	静岡県立大学薬食研究推進センター
吉川 敏一	(公財)ルイ・パストゥール医学研究センター、元京都府立医科大学(第4回 ICoFF 会頭)
渡邊 昌	(公社)生命科学振興会、元東京農業大学
和田 昭盛	神戸薬科大学

海外顧問

Cristina Andres-Lacueva	University of Barcelona, Spain(第5回 ICPH 会頭)
Sue-Joan Chang	National Cheng Kung University, Taiwan
Kevin D. Croft	University of Western Australia, Australia
Cesar G Fraga	University of Buenos Aires, Argentine(第6回 ICPH 会頭)
Chi-Tang Ho	Rutgers University, USA
Lucy S. Hwang	National Taiwan University, Taiwan(第5回 ICoFF 会頭)
Pingfan Rao	ZJGS University Joint Center for Food and Nutrition Research, China
Fereidoon Shahidi	Memorial University of Newfoundland, Canada (ISNFF 創設者)
Young-Joon Surh	Seoul National University, Korea
Francisco Tomas-Barberan	CEBAS-CSIC of Murcia, Spain(第7回 ICPH 会頭)
Chin-Kun Wang	Chung Shan Medical University, Taiwan (ISNFF 前会長)
Gary Williamson	University of Leeds, UK(第4回 ICPH 会頭)
Chung S. Yang	Rutgers University, USA
Suk Hoo Yoon	Woosuk University, Korea(第6回 ICoFF 会頭)